Gitのコマンドのイメージ

# git init

フォルダの初期化を行う。このコマンドを行ったディレクトリに.gitファイルを作り、そのディレクトリ以下を管理下に置くことができるようになる(管理はまだ開始されていない)。cloneで拾ってきたファイルには.gitファイルがあるためこのコマンドを行う必要がない。

# git clone [url]

url先のリポジトリからダウンロードし自分のローカルに保存する。保存したものはローカルリポジトリとして認識される。

# git add [directory]

指定したファイルをgitの管理下に置く。addされたファイルはgitの管理下となりコミットすることで変更点等を記録していくこととなる。.gitignoreファイル内に書いてあるものは基本的に管理されない。よく使うコマンドは Git add .

# git remote [param] [name][url]

現在いる場所(ローカルリポジトリ)と[url]のリポジトリとの連結に関する設定を行う

ex1.originという名前で呼び出せるrepositoryと関連付ける

- git remote add origin git://github.com/hogehoge

ex.2 upstreamという名前で呼び出せるrepositoryを変更する。

- git remote set-url origin git://github.com/hogehoge

# git commit [option]

git管理下にあるファイルの中で変更された点を記録し、コミットとして成立させる。

これを行うことで変更点が記録され、リポジトリに対して送る準備が完了する。

オプションによってコメントの書き方等が変えることができる。

# git push [name] [branch]

nameで呼び出されるrepositoryにたいして自分のcommitを適用させる。

\* 他の人のコミットがあった場合、下記のpullを行え　と言われることがある。

\* 他の人と同時に同じ箇所のコミットを行った場合コンフリクト(競合)することがある。

# git pull [name] [branch]

nameで呼び出されるrepositoryの他人のcommit等を含める更新を受け取り、自分のローカルrepositoryを更新する。

# git checkout

ブランチを発行し、作業場を移動する。

# git fetch

# git merge

# git fork

git branch

テスト